

【2年生～6年生まで13名 朝日小学生新聞こども会議での発表】 H29.11.12（日）

テーマ：未来の動物園、そう考える理由

・地域の自然を感じられる動物園

世界の動物たちをみられる動物園は多いが、熊本ならではの江津湖の生きものについてもっと展示を増やし、江津湖側へ出るときにそこをアピールできる道をつくる。

・動物たちがたくさん思いっきり楽しく遊べる動物園

1頭1頭のスペースを広くして、格子の中の放飼場にロープ、消防ホース、タイヤ、木を入れる。木は、植える。おもちゃなどを投入できるようにする。

・天候の違いも楽しめる動物園

雨の日は、晴れの日と動物の行動も違うので、もっとヒトが雨の日も見やすいように、観覧スポットに雨除けを設置する。動物側には、屋根をつけない。

・めずらしい動物のいる動物園

キンシコウやシフゾウなど、他園と違うところを、もっとHPやパンフレットでアピールし、その動物の生態や行動について、1日に何度かトークショーガイドを行い、写真も間近で撮影できるようにして、強い印象を残す。動物の誕生日に、好物を来客者がプレゼントできるようにする。

・動物と同じ目線でみられて、動物の毎回違う行動をみられる動物園。

動物とのふれあいがもっとできるようにして、イキイキとした動物たちの様子をみられるように生息地が同じ動物の混合展示を積極的行なう。ヒトに危害をくわえない安全な動物のエリアに入って、動物たちが経験していることを間近に見られるようにする。例）到津の森公園のワオキツネザルのエリアにヒトが入っていけるようなエリアづくり、平川動物園のような混合展示、宮崎市フェニックス動物園のようなゾウのパレード、カピバラとの足湯など。

・動物をもっとくわしく知れる動物園

各動物のエリアに、スマートフォンを導入して、バーコード読み取りなど、かざせばその動物の情報がわかるようにする。情報の内容は、動物園のスタッフだからこそ知れるような情報が良い。

・動物もイキイキと楽しんでくらせる動物園

カピバラがつかれる温湯に、ヒトも足湯できる場所。

・来園者がいろいろ学べる動物園

資料館を充実させて、動物の歯について、内臓についてなど、テーマごとの部屋をつくる。AIなどロボットの設置を行い、知らない動物の情報について、AIがこたえてくれるようにする。

・世界旅行をした気分になれる動物園

エリア分けして、そこにすみやすい環境をエリアごとにつくり、食べ物もそこでつくる。

・来園時に動物園からタブレットを配布してもらえる動物園。

各動物舎の前にくると、地震のときのようなふだんあまりみられないような動物の動きの映像などの情報も見られるようにする。その動物に最適な温度・湿度・植物などの情報もいれて、知ることができるようにする。

- ・動物のための動物園

園内に、動物たちの糞など堆肥を肥料として、エサをつくるシステムを構築する。

- ・野生の環境に近い動物園にする。

床を土に、生息環境に近いように冷暖房を完備することで、本来の生息地とはなれた日本でも動物の不安をやわらげることができる。

- ・ペンギンと一緒に泳げる動物園

ヒトが泳ぐプールの下に、ペンギンが泳げるプールを上下二層でつくることで、一緒に泳ぐことができる。